

# トルコ金融政策（2021年3月）

## インフレの上振れリスクに対して、前倒しで強力な金融引き締め

2021年3月19日

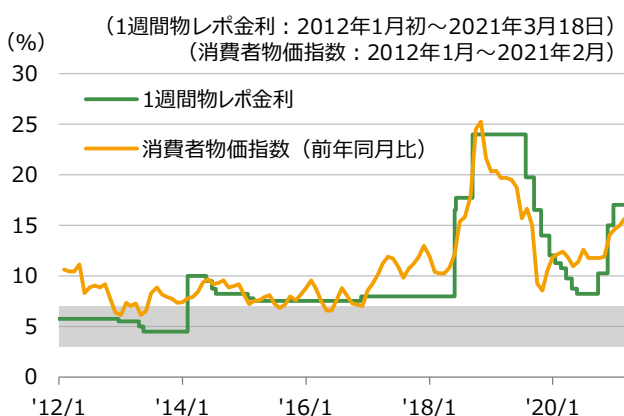
### 大幅利上げでインフレ抑制に向けて断固とした姿勢を改めて示す

トルコ中央銀行は3月18日（現地）、政策金利（1週間物レポ金利）を2.00%ポイント引き上げ19.00%とすることを発表しました。市場予想の1.00%ポイントを大きく上回る利上げ幅であり、インフレ抑制に向けて断固とした姿勢が示されたことで、発表後にトルコ・リラは主要通貨に対して上昇しました。

声明文では、国内需要の状況や昨年秋までの通貨安による累積的な影響、国際的な食品・商品価格の上昇などがインフレ見通しに悪影響を及ぼし続けているとし、物価を取り巻く環境に引き続き警戒が示されています。そうした中、中期的なインフレ見通しの上振れリスクを考慮して、「前倒し」で「強力な」金融引き締めを実施する決断を下したと説明されています。消費者物価指数は2月に前年同月比+15.6%まで加速しており、目先は資源価格の上昇により更なる上振れが見込まれることから、今回の予防的な措置は妥当であり、中銀に対する市場の信認を一層高めることになると考えられます。

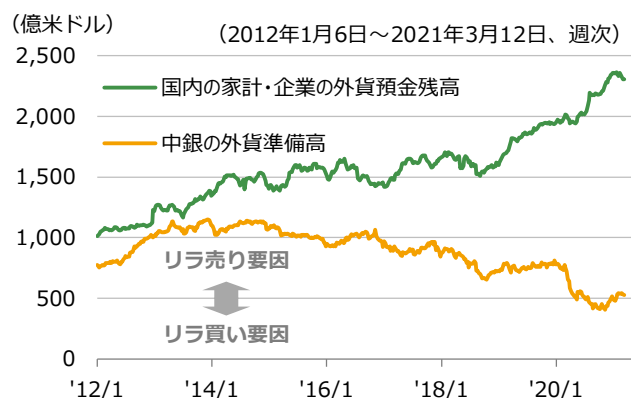
トルコ中銀は昨年大きく減少した外貨準備を今年は積み増す方針を示しており、これはリラ高を阻む要因になりそうです。一方、昨年リラの売り要因になっていた国内の家計・企業が資金を外貨にシフトする動きは、国内預金金利の大幅な上昇によって一服しています。また、資源価格の上昇にもかかわらず、輸出の回復と高金利政策による内需の抑制により貿易赤字が拡大していないことも、リラには好材料です。そして何より、エルドアン大統領が高金利を非難する発言を続ける中でも、トルコ中銀がインフレ抑制に向けて断固とした金融引き締め姿勢を堅持していることは投資家にとって安心材料です。こうした状況が続く限り、現地通貨建てで高い利回りを有するトルコ国債は、円ベースでも良好なリターンが期待できると考えられます。

#### 1週間物レポ金利と消費者物価指数



（出所）ブルームバーグ

#### 国内勢の外貨預金残高と中銀の外貨準備高



（出所）ブルームバーグ

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。